

医療機関における外国人 患者対応事例（病院）

春山記念病院 内科
井口 遼

基本情報

名称	春山記念病院	
所在地	新宿区百人町1-24-5	
標榜診療科	内科、消化器内科、消化器外科、外科、整形外科、リハビリテーション科、形成外科、脳神経外科、泌尿器科、麻酔科	
許可病床数	99床（急性期：39床、回復期：60床）	
救急搬送台数	6365台 (2023年)	
外観		

春山記念病院

大量のホテルが周辺に存在。
外資系高級ホテル～民泊まで多数

巨大ターミナル新宿駅から徒歩10分
最寄り駅（大久保駅）から徒歩2分

日本国内はインバウンド需要の増加が話題になっている

PRESS RELEASE
報道発表資料

日本の魅力を、日本のチカラに。



日本政府観光局

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

2024年11月20日

訪日外客数（2024年10月推計値）

◇10月：3,312,000人、過去最速で累計3,000万人突破

- 10月の訪日外客数は、3,312,000人で、前年同月比では31.6%増、2019年同月比では32.7%増と、過去最高であった2024年7月の3,292,602人を上回り、単月過去最高を記録した。また、10月までの累計は30,192,600人となり、1964年の統計開始以来、過去最速で3,000万人を突破した。
- 紅葉シーズンを迎え、多くの市場で訪日需要の高まりがみられたほか、東アジアでは中国、東南アジアではシンガポール、欧米豪・中東地域では米国などで前年同月に比べて訪日外客数が増加したことが今月の押し上げ要因となった。

訪日外国人の内、

1.5 %

の方々が医療機関に行く必要を感じている。

**国際救急医療のインフラ整備が追いついておらず、
そこで苦しむ訪日外国人、関係者を医療現場ではよく目にしている。**

各ステークホルダーの負（ペイン）



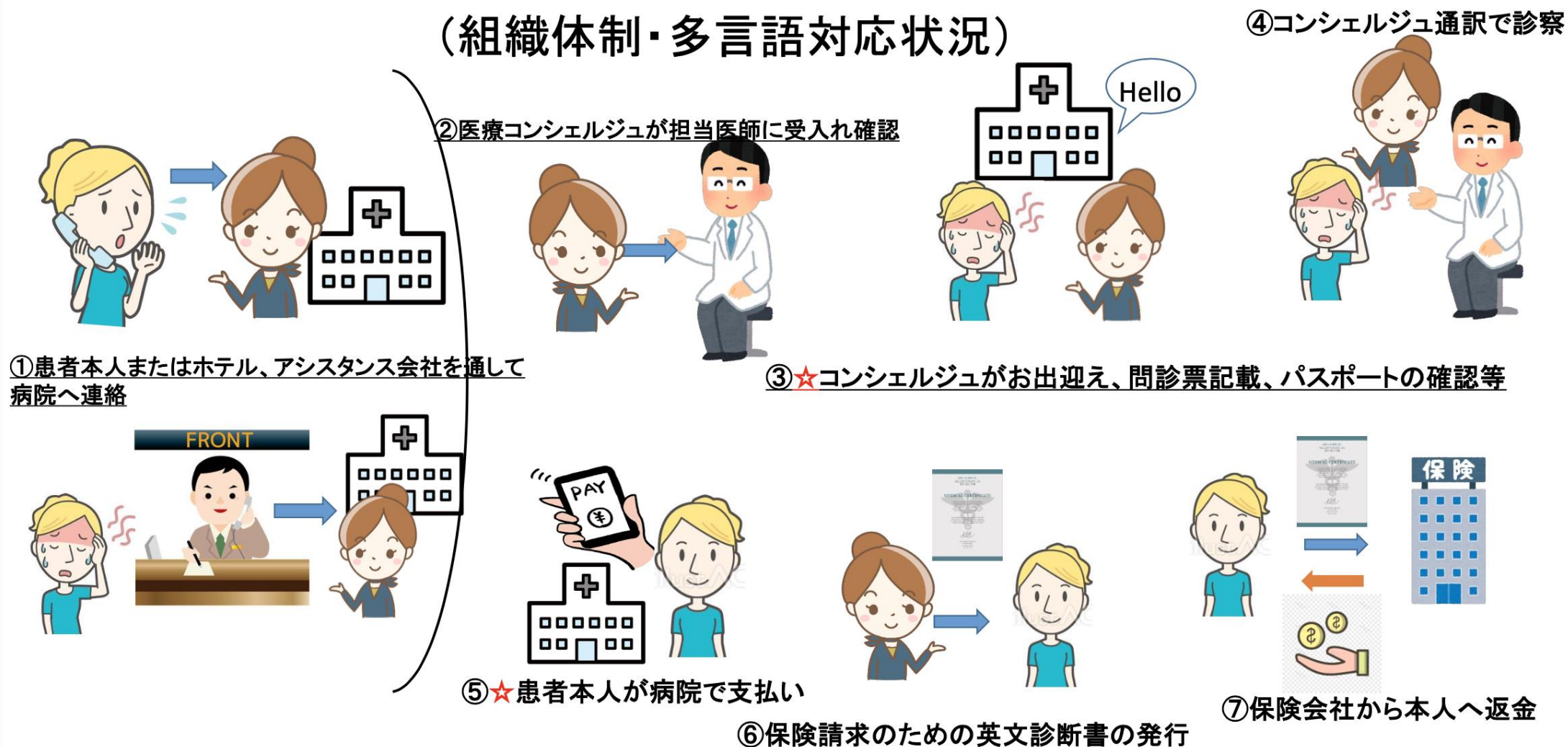
- ✓ どこに行ったらいいか分からない
- ✓ やっと医療機関を見つけても全然コミュニケーションが取れない

- ✓ 外国人患者受入医療機関に認定されてが、実態は受入体制が全然整っていない
- ✓ 未払い問題が発生しそう
- ✓ 積極的に受入れる医療機関が他に出てきてほしい

- ✓ ホテル：専門知識なく十分にサポートできない
- ✓ 救急車：軽病で救急車を呼ばれると重病者への医療資源が枯渇する

・外国人患者受入体制の現状

(組織体制・多言語対応状況)



受け入れ診療科

- 内科
- 整形外科
- 脳外科
- 形成外科
- 小児科（専門医ではない対応）

→上記以外も可能な限り対応

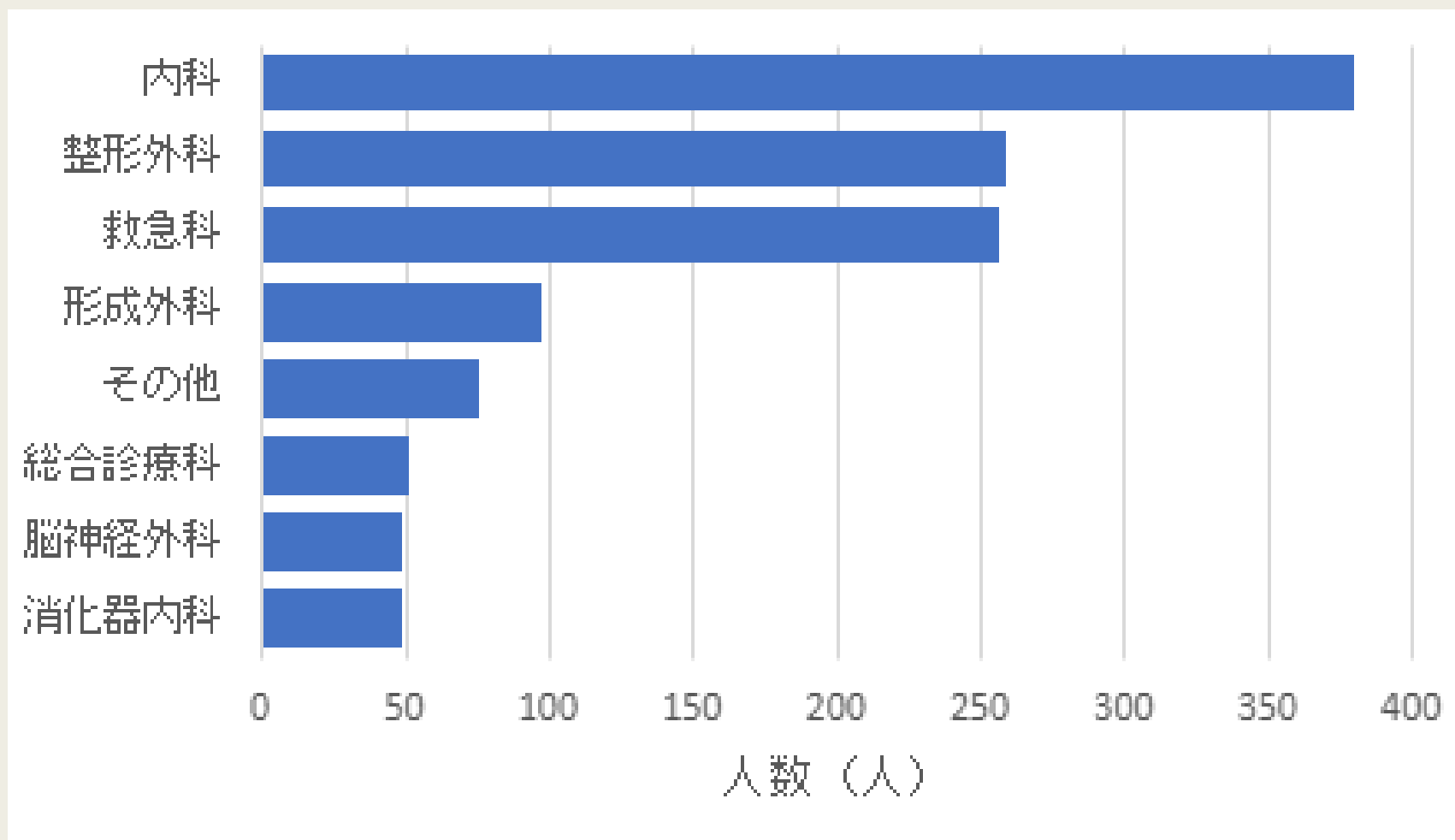
- 救急対応24時間

2023.7~2024.11（16ヶ月間）

**訪日外国人患者 受入れ数
1,220人**

他院への転送 7件

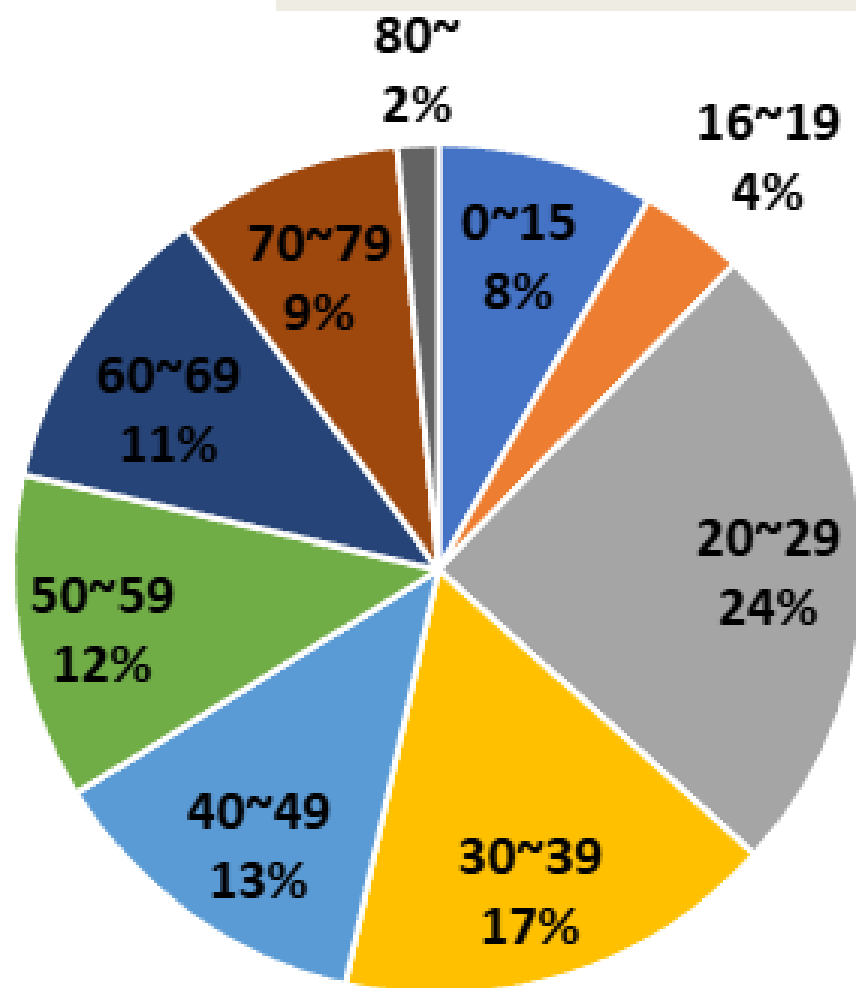
受診科目別区分



国別ベスト10

国・地域	人数 (人)	割合
アメリカ	264	21.6%
オーストラリア	147	12.0%
中国本土	102	8.4%
シンガポール	73	6.0%
香港	73	6.0%
ドイツ	52	4.3%
カナダ	49	4.0%
台湾	47	3.9%
イギリス	42	3.4%
韓国	36	3.0%

年齢別区分



症例 55歳英国人男性

【主訴】 左肘痛、左側腹部痛

【現病歴】

日本旅行中のX日に商業施設の階段で滑って転倒した。左肘裂傷と左側腹部痛を認めた。近くにいた人が救急要請し、当院に搬送となった。

症例 55歳英国人男性

【既往歴】 なし

【生活歴】 喫煙 なし、飲酒 機会飲酒

【服薬歴】 なし

【入院時現症】

意識清明

Vital signs : 体温 36.4°C、脈拍 107/min、血圧 173/95

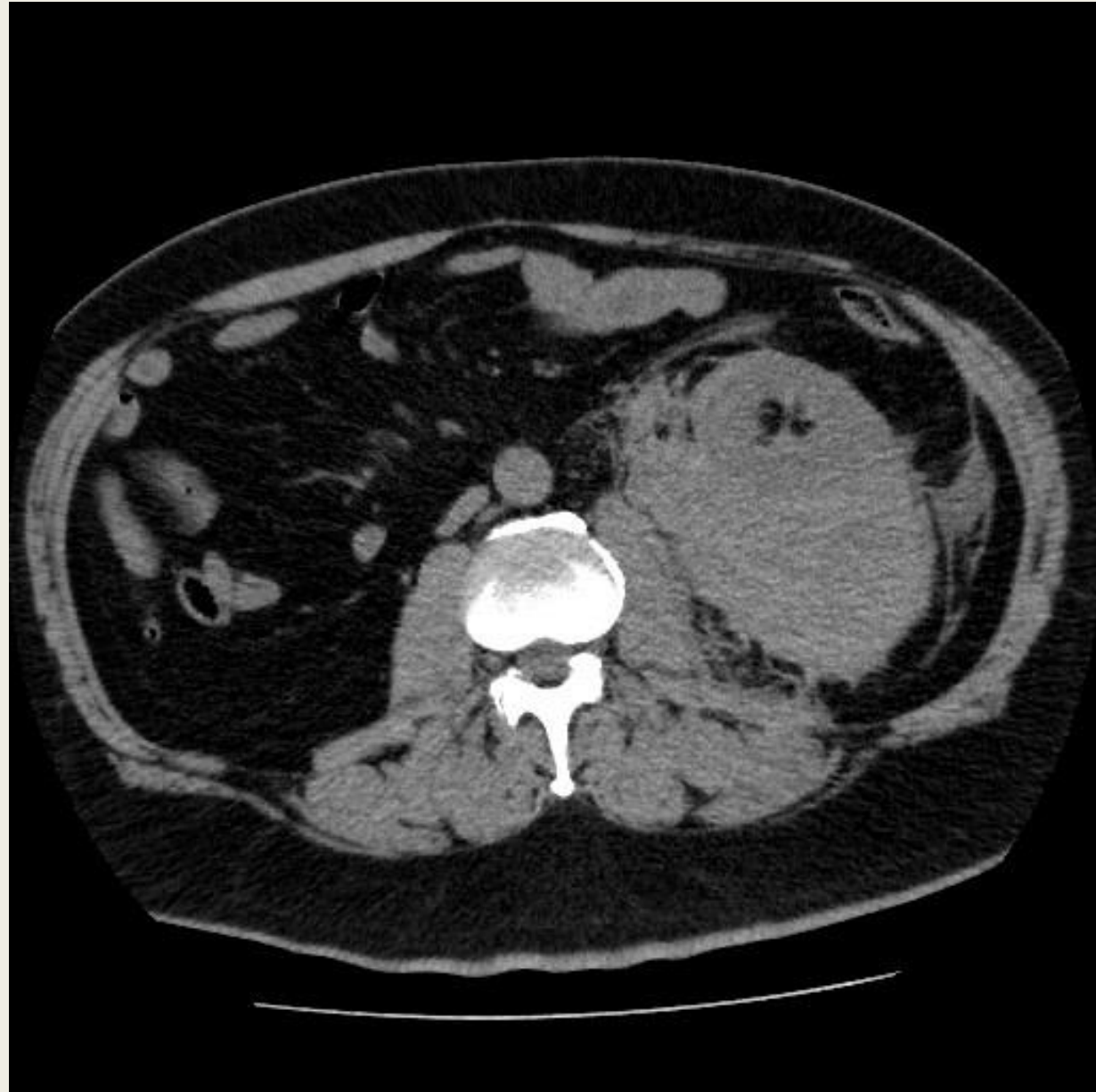
mmHg、SpO₂ 98%(room air)

【身体所見】

四肢：左前腕に10cmの開放創あり、明らかな麻痺やしびれなし

腹部：平坦、軟、腸蠕動音正常、圧痛なし

単純CT



造影CT



来院後経過



転院後経過

- X日：入院となった。

再度転院先にて造影CTを撮影したが、造影効果は消失し、その他特記所見も認めなかった。

- X+2日：Hbの低下なく経過したため、本人と相談の上、退院となった。

本症例を踏まえて

- 訪日外国人の医療機関受診は軽症が7割を占める

東京都保健医療局. 外国人患者の医療等に関する協議会.

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/gaikokujin/kentou/30gaikokujinkyogikai.files/gijiroku.pdf, (2018-12-05)

- 訪日外国人の診療は自由診療となるため医療費が高額となる
- 各種検査に対するハードルも高くなるが医学的根拠に基づき提案する必要がある
- 医療者側も重症例の可能性を念頭に置き、診療にあたる必要がある。

病院が訪日外国人診療に取り組むことの意義

- 訪日外国人受け入れ可能なクリニック等が増えてきているのは間違いなくいい傾向
- クリニックで対応できる領域には限界がある
- 病院で受け入れる体制をつくるのには非常にコストがかかる（人的ソース、システム構築）
- それでも3つの負を解決するため今後も積極的に病院として取り組む